


I-14. イノベーション・エコシステムの形成についての海外事例調査

Case study on development process of innovation ecosystems in Singapore and Israel

 キーワード	イノベーション・エコシステム、シンガポール、イスラエル、ベンチャー投資、産学連携
Key Word	innovation ecosystem, Singapore, Israel, venture investment, collaboration between universities and firms

1. 調査の目的

本調査では、今後、沖縄科学技術大学院大学を沖縄のイノベーション・エコシステム形成に活かしていく方法を考える上で参考となる、海外のイノベーション・エコシステム形成への取組を調査・分析するとともに、沖縄のイノベーション・エコシステム形成に関与している様々なプレイヤーとの意見交換等を実施した。海外事例として、シンガポールとイスラエルのイノベーション・エコシステムの成立過程と現状について、関連文献に基づいて調査した。これらの国は、欧米等の技術先進国からの距離の遠さ、国内市場の小ささ、国内における技術人材・アントレプレナー人材や投資資金等の乏しさなどの、当初の多くの悪条件にも関わらず、政府の強力な政策実施により、イノベーション・エコシステムを発展させることに成功した事例として取り上げた。

2. 調査の内容

シンガポールは1965年に独立した当時は国内に十分な資源・人材・市場のない小国であったが、海外多国籍企業からの直接投資受入れと海外からの技術導入を積極的に促進し、現在では世界で最も豊かな国の一つとなった。特に、2000年代以降、国内のイノベーション能力を高める政策を推し進めることでイノベーション・エコシステムの形成に成功し、「グローバルタレントハブ」となっており、世界でも高く評価されている。シンガポール経済の発展は、政府の優秀な経済開発官僚が主導的に進めてきたところに特徴があるが、イノベーション・エコシステム形成も民間企業主導ではなく、政府の主導で進められてきた。多国籍企業がシンガポールには数多く進出しており、中国やASEAN諸国の成長市場との結びつきが歴史的にも高い。そのため、シンガポールでスタートアップ企業として成功すれば、大きな成功が期待できるという魅力もあった。

イスラエルは、1945年に設立後、2度の中東戦争を経て、周囲にアラブ国がある厳しい安全保障環境と、自然資源の少なさ、欧米からの遠い距離という不利な条件下、世界屈指のイノベーション・エコシステムを構築してきた。小国ながら、ハイテク分野（IT、セキュリティ、医療等）のスタートアップ企業、豊富なベンチャー資金、産学官軍連携等でイノベーション・エコシステムのモデル形成に成功している。自然資源が少なく、人口が少ない小国ではあるが、1990年代の政府主導ヨズマ・プログラム（VCの呼び水）が成功し、世界第2位のイノベーション国家に成長している。エコシステムの主要アクター間の好循環が見られ、スタートアップやオープン・イノベーションにとって魅力ある国となっており、セキュリティ技術や自動運転技術等で今後の成長も期待される。

シンガポール、イスラエルのいずれの国においても、当初の悪条件を克服するために、他の先進国・地域から優れた技術人材・起業人材や先端技術への投資資金、多国籍企業（研究所を含む）の呼び寄せを積極的に行っており、それによって、欧米やASEAN地域等の大きな市場へのアクセスも可能となり、高い経済成長の実現へとつなげることが可能となっている。

本調査は、内閣府委託調査「沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向けた実践的調査」（平成29年度沖縄振興推進調査）に関し、株式会社日本経済研究所から再委託を受け、海外事例調査部分等を担当して調査したものである。報告書の一部は<https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/kanrenjoho.html>においてダウンロード可能である（2018年11月23日確認）。（文責：依田）